

宮城山岳通信 第21号

目次

巻頭言	支部長 2 頁
宮城支部令和2年度通常総会議事録	事務局 3 頁
定例役員会報告	事務局 3~5 頁
宮城支部山行報告	
☆ 蝉時雨山行 (北屏風岳) (共益事業)	富塚和衛 5 頁
☆ 夏山山行 (北屏風岳) (共益事業)	富塚和衛 5~6 頁
☆ 初秋山行 (大東岳) (共益事業)	富塚和衛 6~7 頁
令和2年10月~令和2年12月の行事予定	事務局 7 頁
編集後記	富塚和衛 7 頁

巻 頭 言
紅葉に思う
支部長 冨塚和衛

日本100名山踏破に挑んでいた頃のことだが、紅葉の時期になると思いだすのが甲武信岳に登った時の事である。折角、紅葉の時期に山に登るのなら、紅葉の名所の山に登ろうと、甲武信岳を自分勝手に関東・信越を代表する紅葉の名所と決めつけ出掛けた。甲武信小屋に着き、小屋の管理人さんから焼酎を頂き飲んでいて、信濃川の源流部を踏査に来たと言う新潟から人が加わってきた。ストーブを囲んで酒を酌み交わしていると、紅葉が話題となった。甲武信に来た目的を話すと、『宮城には東日本を代表する紅葉の山「栗駒山」があるではないか。』と言われたのだ。自分は栗駒山の麓の生まれ。灯台下暗しとはこの事だと赤面した事を思い出す。それ以来、紅葉の時期になると、故郷の山「栗駒山」に足を向けるようにしている。この紅葉、秋になると落葉樹が赤色や黄色・褐色に色づく。この時期、常緑樹の緑色とが織り成す山肌の景色は、日本ならではの原風景の一つではないだろうか。この紅葉、科学的には樹木の老化現象と言う自然の営みなのだが、将に、山の恵み、人間社会への自然からの贈り物だ。話は変わるが、COVID0-19と名付けられた新型コロナウイルスが世界全体に感染を広げ、終息する兆しが一向に見えない。このウイルスやペスト・コレラなどを引き起こす細菌の病原体は、自然災害と共に、有史以来人間社会に突き付けられた自然界の脅威とも言えるのではないだろうか。森羅万象を意味するとも言われる自然は、人間社会に対し恵みともなるが、脅威ともなる両刃の刃の性格を持つ。一方、人間社会が節度をかいた自然利用に警鐘を鳴らしたのが、1972年発行のローマクラブの「成長の限界」である。この警鐘に大綱で賛意を示しているのが槇有恒である。著書「山の心(毎日新聞社):四方山話」の一説にこう述べている。

『昔話「つる女房(オペラ夕鶴)」のように限らない物の追及に人類は衰亡する運命の途を辿るものでありましようか、わたしにもわからない難しい事です。しかし、心のある人々は今

まで気付かなかったことについて深く考え、憂えるようになりました。自然は自分たちの好き勝手な振る舞いに対して無限の存在ではなく、自分たちの行動に何らかの制限を加え、自然との調和あるものにしなければならないとの考えであります。この考えは物への欲求もさることながら、それよりも人間としての感性が大切であり、人間も自然の一員であり一部分であると言う謙虚な反省であります。しかし、このことも自然利用者が利己主義的な主観に駆られる限り、価値判断の相違のために調和も得難い場合の多い現状であります。エコノミック・アニマルと言われながらも生産至上化の一徹に進んだ戦後のわが国民自ら胸中に聞くモラルの声でもあります。

(中略)もとより私には神道を語り、仏教を説く力はありませんが、このような精神的風土の中に生きておるといっても過言ではありません。今申し上げましたことにより、わたしがどのように自然を観ているかをお分かりいただけたかと思えます。長い間、わたしは山登りを好み楽しんでおるものでありますが、なぜ山に登るかという問いに対してのわたしなりの考えでもあります。もとより自然の心をつかもうとすれば快川和尚のように必ずしも山水を須いなくてありましようが、不明の私には得度しがたい境地でありまして、常に強く山へと心ひかれるわけです。といいますのも、山岳ほど豊かに自然の残された地域は他にありません。聳える峰々、静かな森、清らかな清流、平和な生き物たち、そして天候の作り出す空の変化など美と荘厳との天地であり、自然はもともと如何に完全なものであるかを見せてくれています。』

地球が誕生してから46億年。人類誕生は1億年から7千年前と言われている。地球の営みは46億年と言う歴史を積み重ねの上に今の姿がある。人類はそのほんの一部に過ぎない。人類に対し「人は幾何級数的に増加するが、食料は算術級数的にしか増加しない」の言葉を突き付けた「成長の限界」は、私にとっても若かりし頃に貪るように読んだ忘れ得ぬ一冊の本となっている。

【宮城支部令和2年度通常総会議事録】

1. 日時 令和2年5月10日(日)
2. 場所 宮城支部事務局宅+メール
3. 会員総数 35名 出席者(メール)7名
委任状14名 合計21名
4. 審議事項
第1号議案 令和元年度事業報告(案)承認の件
第2号議案 令和元年度収支決算報告(案)承認の件
第3号議案 令和2年度事計画(案)承認の件
第4号議案 令和2年度収支予算(案)承認の件
第5号議案 宮城支部規約一部改正(案)承認の件
第6号議案 役員改選(案)承認の件
5. 議事の経過の概要及び議決の結果
議長に、富塚和衛宮城支部長が規約に基づいて選任され、下記議案についてメールで審議を行った。議長は第1号議案から第6号議案について一括メールによりメール出席者に諮ったところ第4号議案について質問があり事務局から説明し了承された。他に質問や意見はなく第1号議案から第6号議案についてすべて異議なく承認された。
なお、監査報告は会計監事木皿謙、草野洋一押印の書類をもって監査報告とし承認された。

議長は、以上をもってメールによる議案の審議を終了した旨を宣し、閉会とした。

令和2年5月13日(水)
議長 支部長 富塚和衛

【役員会議事録】

☆令和2年7月臨時役員会議事録

日時:7月2日(木)18:00~
場所:仙台市川が-センター 5F 会議室

出席者:富塚支部長、草野、高橋、横山、
富塚(真)、佐藤、千石、鳥山
計8名

《報告事項》

- (1)新型コロナウイルス感染症に関し発
出された書面
①本部発出分
・新型コロナウイルスへの当会の対応について(3月26日)
・大都市圏の会員の皆様へ~新型コロナウイルスの対応について(4月1日)
・新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく「緊急事態宣言」の対応について(4月8日)
・コロナにおける支部総会の対応について(4月20日)
・会員の皆様へ~緊急事態宣言の延長について(5月20日)
②山岳4団体発出分
・山岳スポーツ愛好者の皆様へのお願い(4月20日)
・山岳スポーツ活動自粛のお願い(5月18日)
・政府の緊急事態宣言全面解除を受けて(5月25日)
③宮城支部発出分
・新型コロナウイルスの対応について
④参考資料
・登山者への5つのお願い(長野県)
・登山を再開するために(Team KOI)
・人との接触を8割減らす、10ポイント(宮城県)
・「新しい生活様式」の実践例(宮城県)
・ZOOMの使い方/主要機能(本部)

《審議事項》

- ①月例山行の開催につて
・公益事業の公募登山は中止とし、代わりに共益事業としての登山を実施する事とした。
・10月の台湾5山登山は中止とした。
- ②定例役員会の開催について
・コロナ対策を取ったうえで、計画通り実施する事とした。加えて、役員会開催が計画されていない8月、12月についても開催することとした。
- ③ビールパーティ等会員等親睦事業につ

いて

- ・8月のビールパーティ、12月の支部晩餐会 & オークションは中止する事とした。

《その他》

特になし

以上の事項について承認または了承される。
(事務局報告)

☆令和2年8月定例役員会議事録

日 時:8月17日(月)18:00

場 所:仙台市SPAセンター 5F 会議室

出席者:富塚支部長、草野、柴崎、横山、富塚
(真)、高橋、佐藤、鳥山

計 8 名

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

- ①本部からの情報受理状況について
 - ・会報「山」連載企画での寄稿のお願い
 - ・支部合同会議のお知らせ
 - ・令和2年度支部運営交付金

②山岳関係機関からの情報受理状況について

- ・「With コロナの登山で気を配りたい事」のポスターの件

(2) 山行集会委員会からの報告

- ①7月蝉時雨山行実施結果について
- ②8月夏山山行実施計画について
- ③9月初秋山行実施計画について

(3) 自然保護・科学委員会からの報告

- ①委員会開催結果について
 - ・委員3名で委員会を開催、委員会として、自然破壊が進む県内の山域をリストアップし、年内に記録として残すため整理し本を作成する計画である旨の報告が委員長より有り。

(4) 会報・出版編集委員会からの報告

- ①宮城山岳第24号編集案内について
 - 委員長から資料に基づき、9月末をめどに執筆依頼する旨の報告あり。

《審議事項》

(1) 登山計画書に関する取扱い基準の一部改正(案)について

- ・「取扱い基準第6」の規定を一部変更することについて審議、了承される。内容は次の

通り。

留守本部担当者順位を、第1順位 佐藤昭次郎、第2順位 千石信夫、第3順位 三宅泰を第1順位 鳥山文蔵、第2順位 佐藤昭次郎、第3順位 千石信夫に

《その他》

①会員等の入会・退会について

- ・鈴木晃三会員退会、支部友会員入会について報告

②2020年度宮城支部役員連絡網について

- ・資料により説明

以上の事項について承認または了承される。
(事務局報告)

☆令和2年9月定例役員会議事録

日 時:9月16日(水)18:00~

場 所:仙台市SPAセンター 5F 会議室

出席者:富塚支部長、草野、柴崎、横山、富塚(真)、
高橋、佐藤、千葉、鳥山、横山

計 10 名

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

- ①本部からの情報受理状況について
 - ・支部合同会議議題
 - ・ZOOMのテスト(練習)

支部合同会議オンラインで参加

- ・自然保護全国集会からの開催
自然保護・科学委員会から原稿を提出する旨の発言有り。(内容は事後報告)

②山岳関係機関からの情報受理状況について

- ・出羽三山風力発電計画について(山形支部からの情報)

(2) 山行集会委員会からの報告

①8月夏山山行結果について

道路工事の為、山行行程を変更して実施した旨報告。⇒留守本部に連絡すべきとの意見あり。⇒登山計画書に関する取扱い基準を改正し変更時の規定を設けることとした。

②10月紅葉山行実施計画について

(3) 会報編集出版委員会からの報告

①宮城山岳第24号の発行時期について

宮城山岳通信第21号の発行の兼ね合いから12月中旬とした。

②宮城山岳通信第 21 号の発行について
4～6 月は事業活動を全て中止したことから、第 21 号は 7～9 月期の会報とすることとした。発行は 10 月中。

《審議事項》

(1) 支部合同会議議題について

本部から示された議題について、事務局から説明、意見・提案等について発言を求めたが、特になく、支部長一任となった。

《その他》

(1) 会員等の入会について

(2) 2020 年度 宮城支部役員連絡網(再)

以上の事項について承認または了承される。

(事務局報告)

【宮城支部山行報告】

☆蝉雨山行(共益事業)

- ・実施日:令和 2 年 7 月 28 日(火)
- ・山域:蔵王連峰北屏風岳(1,825m)
- ・コース:蔵王町ふるさと文化会館前駐車場→南蔵王登山口→前山→杉ヶ峰→芝草平→北屏風岳→杉ヶ峰→南蔵王登山口→蔵王町ふるさと文化会館前駐車場
- ・参加者:、富塚和衛、富塚真味子、横山哲(以上会員)、多田孝徳、佐藤富士子、村上敏郎、鳥田伊志、津久井宏(以上支部友) 計 8 名
- ・報告者:富塚和衛

新型コロナウイルス感染の懸念から 4 月から支部活動を自粛していたが、7 月 2 日の臨時役員会で 7 月から新型コロナウイルス感染に配慮の上、支部活動を開始することになりました。

自粛後、最初の山行として蝉時雨山行を計画したが、台風 12 号の影響による荒天が予想されたため、蝉時雨山行は中止を余儀なくされました。 以上

☆夏山山行(共益事業)

- ・実施日:令和 2 年 8 月 28 日
- ・山域:蔵王連峰北屏風岳
- ・コース:蔵王町ふるさと文化会館前駐車場→遠刈田温泉公民館無料駐車場→南蔵王登山口→大黒天→剣ヶ峰→刈田岳避難小屋

⇒刈田岳⇒馬の背⇒熊野岳⇒熊野岳避難小屋⇒山頂レストハウス⇒刈田岳⇒大黒天⇒遠刈田温泉公民館無料駐車場 解散

・参加者:富塚和衛、富塚味子、横山哲、加藤知宏(以上会員)、村上敏郎、鳥田伊志、蔭山美緒子、針生紀子、津久井宏(以上支部友) 計 9 名

・報告者 富塚和衛(リーダー)

例年の「夏山山行」は、日本アルプスの代表的な山域に出掛けて登山を楽しんでいたが、今年度は、新型コロナウイルス感染を考慮して、県境を跨ぐ遠征は控えて県内で実施する事とした。また、7 月予定の「蝉時雨山行」は、荒天の為、中止を余儀なくされていたので、山行計画をそのまま引き継ぐ形で「夏山山行」を実施する事とした。

参加者にとっては待ちに待った山行だったようで、予定集合時間 20 分程も前に全員が揃ってしまった。簡単なミーティングを行い、蔵王町ふるさと文化会館前駐車場から遠刈田温泉公民館無料駐車場に移動し、此処で 3 台の車に分乗して南蔵王登山口を目指す。処が、予想もしなかった事態が待っていた。登山口近くの上り車線で道路の補修工事が行われており、登山者が利用している駐車スペースが閉鎖されていたのだ。わずかに利用できるスペースも先客の車で満車状態。他を探すも平日にもかかわらず観光客も多く、見つからない。仕方なく、北屏風岳往復は諦めて、大黒天の駐車場に移動し、此処から刈田岳を經由して熊野岳(1,841m)を往復することにした。

登山開始が 10 時を過ぎてしまった。大黒天から先ずは刈田岳を目指す。このルートは刈田岳まで約 1 時間。観光客も往来する観光ルートだ。道端にはヨツバヒヨドリの花が咲く。この花の蜜を求めてアサギマダラが飛び交う。右は火山特有の赤茶けた山肌。この二つのコントラストが実に良い。剣ヶ峰で一休みして刈田岳に歩を進める。コースタイム通りの時間で刈田岳到着。此処から見る蔵王のシンボル「お釜」は絶景だ。

右手にお釜を見ながら馬の背を山形県に位置する熊野岳へと歩みを進める。観光客と思しき人が平日にもかかわらず結構往来している。途中から熊野岳への直登コースを登り詰

めて山頂に到着する。刈田岳からは 40 分ほどの行程だ。



お釜をバックに

熊野岳は山頂がほぼ平坦だ。道標が立っていないと何処が山頂か分からない。熊野神社に参拝して昼食を摂ることにしていた熊野岳避難小屋に向かう。



熊野岳山頂にて

避難小屋は宮城県の管理だ。真ん中にストーブが置いてある。火山噴火を想定してカールメットも数多く備えてあった。

昼食タイムとして 30 分ほど避難小屋で費やす。その後、馬の背を戻り避難小屋併設の頂上レストハウスへと下って行った。途中で、数人が地面を掘り起し、地質調査らしき作業をしているのに出くわした。近づいてお話を伺うと、地層から火山活動の年代を調べているのだと言う。最新の火山活動(噴火)は 100 年ほど前の明治期の活動であることも教えてくれた。調査していたのは、山形大学の先生と学生達だった。

レストハウスでトイレタイムを取り、来た道をアサギマダラに見送られながら大黒天駐車場へと下って行った。遠刈田温泉公民館駐車場に着いたのは 15 時 30 分。其処で解散、三々五々帰路に就いた。以上

☆初秋山行(共益事業)

- 実施日:令和 2 年 9 月 27 日(日)
- 目的地:大東岳(二口山塊) 1,366m
- コース:大東岳山口(7:30)～(9:30)5 合目(9:40)～(11:30)大東岳山頂(12:00)～(13:30)樋ノ沢避難小屋(13:40)～(14:50)雨滝入口(15:00)～(16:00)登山口着 解散
- 参加者:富塚和衛、富塚真味子、太田正、草野洋一、(以上会員)、津久井宏、鳥田伊志、庄子美佐子(以上支部友) 計 6 名
- 報告者 富塚和衛(リーダー)

初秋山行は仙台市内で最高峰の充実した山行が楽しめる二口山塊の盟主大東岳(1,366m)に挑むことにした。この大東岳、特徴のあるトロイデ型の火山で、台形上の山頂は仙台付近から望むことが出来る。

7 時に登山口の駐車場に集合する。駐車場には山栗の実が落ちていた。いよいよ秋本番、標高の高い山では紅葉が見ごろの季節だ。空模様は霧雨がそぼ降るすっきりしない曇天だ。7:30 分、登山口をスタート。往路は表コース、復路は裏コースの周回コースの予定だ。まずは小行沢、立石沢沿いに杉林の中の緩やかな道を行くと、渡渉が待ち構える。数日前の雨の影響か水量が多い。



立石沢を右手に暫らく行くと立石沢の標識が立つ広場に着く。此処で休憩を取る。周囲は雑木の森だ。広場から直ぐ渡渉、ここを過ぎると傾斜のある九十九折の道となる。周囲はブナ林へと植生を変える。尾根沿いの 5 合目に着いたのは 9 時 20 分。ほぼ予定通りの時刻だ。5 合目は狭いが広場になっており、一本取るのには絶好の場所だ。



5 合目からは、本格的な登りになる。ひと踏ん張りして登り詰めて行くと平坦な道になり、こぶし平に着く。こぶし平から8合目を過ぎると、愈々、最後の難関急登の「鼻こすり」が待ち受ける。だが、登ってみれば意外と大した急登でもなかった。鼻こすりを登り切り、背丈ほどの笹が生い茂る道を行くと大東岳の山頂に出た。時刻は 11 時 20 分。登山口を出発してから 4 時間弱の行程だった。



山頂で談笑しながら昼食を摂る。大東岳の山頂には、旧字体の漢字が刻まれた一等三角点を設置されている。県内に設置されている 14 の一等三角点の一つだ。

30 分ほど山頂で過ごし下山することにした。計画では裏コースを取り周回する事にしていたが、空模様が思わしくなく、また、滑りやすいか所も多くあることから、安全策を取り登って来た道を引き返すことにした。帰路は、5 合目で休憩を取っただけで一気に登山口まで下った。登山口に着いたのは、15 時過ぎ。7 時間 30 分程の行程であった。宮城支部月例山行初参加の支部友さんにも曇天下ではあったが楽しんでもらった山行ではなかったと思う。

以上

【今後の行事予定】

- 2020 年 10 月
 - ☆10 月中旬
宮城山岳通信第 20 号発行
 - ☆10 月 13 日(火)
秋季山行(北屏風岳)
 - ☆10 月 19 日(日)
定例役員会(仙台シルバーセンター)
- 2020 年 11 月
 - ☆11 月 15 日(日)
晩秋山行
 - ☆11 月 19 日(木)
定例役員会(仙台シルバーセンター)
- 2020 年 12 月
 - ☆12 月中旬
宮城山岳第 24 号発行
 - ☆12 月 5 日(土)
支部連絡会議(オンライン)
 - ☆12 月 13 日(日)
初冬山行
 - ☆12 月 23 日(水)
定例役員会(仙台シルバーセンター)
(事務局担当)

【編集後記】

7 月(4 月・5 月・6 月分)発行予定の「宮城山岳通信第 21 号」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で事業の自粛を余儀なくされ、支部活動を開始したのは 7 月からとなったことから、「宮城山岳通信第 21 号」は 10 月発行に変更し、この度刊行しました。支部活動を開始したと言え、蜜を避けた活動にならざるを得ず、内容も十分とは言えませんが、休まずにこのような機関誌・会報をタイムリーに発行して行く事が会報・編集出版委員会の責務でもあると考えておりますので、今後とも宮城支部の関係者の皆さんにはご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

会報編集出版委員長 富塚和衛

宮城山岳通信

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2020年10月10日 発行人 冨塚和衛

会報・編集出版委員会 冨塚和衛 千石信夫 細川光一 三宅泰 鳥山文蔵

事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切字畑中 9-12